

## 「越境出産」がもたらす人口問題：

－香港の事例から－

### Population Issues Caused by Birth Tourism in Hong Kong SAR

梁 凌詩ナンシー(立命館大学)

LEUNG Ling Sze Nancy (Ritsumeikan University)

[nancyllsleung@hotmail.com](mailto:nancyllsleung@hotmail.com)

「越境出産」は無条件の「出生地主義」(Jus Soli)を利用して子どもに生まれた場所の国籍を与えることを目指しているものである。香港で現れた「越境出産」は一時的に総出生数に占める割合が30%を超えており、アメリカ、カナダと並びに「越境出産」に直面することで世界の注目を集めた。しかし、アメリカやカナダと異なり、香港で「越境出産」をする者は中国本土からの妊婦に限られている。それは香港で実行されている「出生地主義」は2001年「居住権」(Right of Abode)の授与に関わる法改正を受けて、香港が中国国籍を持つ者の香港で生まれた子どもに出生地主義(Jus Soli)を実行するようになったためである。香港の「居住権」は中国政府が認めた香港基本法(Hong Kong Basic Law)に基づいて構築されたものであり、中国本土住民と異なる市民権を与えるものである。この特別な「居住権」は中国本土住民が香港で「越境出産」をする原因である。

中国本土住民からの「越境出産」は香港全体の出生数に占める割合が2001年の1.3%から2012年の31.1%まで増加した。2001年から2012年まで「越境出産」から生まれた新生児が212516人いる。「越境出産」から生まれた子どもは両親に香港での長期滞在ビザを与えられないため、生まれた直後両親とともに中国本土に戻ることが殆どである。つまり、「越境出産」から生まれた子どもは香港の人口にはカウントされないため、香港の人口発展に影響を及ぼさないと考えられる。しかし、近年新生児向けの予防接種や年少人口向けの義務教育は供給不足に陥っている。それは「越境出産」から生まれた子どもは香港でこれらのサービスを受けるからである。香港政府は人口にカウントされない子どもに公共サービスを提供するにはより多くの支出を必要とするが、子どもが香港の教育を受けることによって香港社会に対する理解や帰属意識を高める効果があると考えられる。将来香港の人口になり、香港の労働市場に参入する可能性も見えてくる。2015年まで母子健康センターや義務教育を受ける「越境出産」から生まれた子どもが年々増加する傾向がある。それに対して、香港政府は年少人口を対象とする公共サービスの供給を増加しつつある。しかし、「越境出産」から生まれた子どもは香港の公共サービスに対する需要が持続するか否かについては把握が難しい。一つの原因は2007年から「越境出産」した中国本土住民の教育水準及び経済状況の特徴が大きく変わったためである。より高い経済力を持つ中国本土住民は子どもに香港の公共サービスを受けさせる必要性が弱くなると考えられる。もう一つの原因は、中国政府が実施する政策は「越境出産」から生まれた子どもの行動を左右しやすい。したがって、「越境出産」から生まれた子どもが香港の公共サービスに対する需要及び香港に定住する意欲の変化はいつでも人口問題を引き起こすと言ってもおかしくない。